

オンライン生徒会交流会 報告書

1 目的

青梅市の将来を担う子どもたちが、「2032年未来の青梅」をテーマに、他校との意見交換・交流を通じて、市政運営に対し興味・関心をもってもらうとともに、「第7次青梅市総合長期計画」の策定に当たり、子どもたちの声を市政運営に反映させることを目的として開催する。

2 日時

令和3年12月22日（水）

午後3時00分から午後4時00分まで

3 会場

オンライン開催

4 参加生徒

中学校10校の各校代表（東中学校を除く） 38名

5 実施概要

(1) 当日スケジュール

14:30	～	14:55	動画視聴	
	・市長挨拶			
	・教育長挨拶			
	・中学校長		代表（西中学校長）挨拶	
15:00			開会	2分
15:02			説明・注意事項	3分
15:05			グループごとに意見交換	4分
15:50			発表（各グループ1分以内）	7分
15:57			市長・教育長講評	2分
15:59			閉会	2分

(2) オンライン生徒会交流会で話し合う内容

グループごとに、各校1～2名ずつに分かれる。事前に各校で話し合ってきたワークシートをもとに意見交換を行う。グループで話し合ったことを1分間で発表する。

(3) 当日の役割分担

全体司会…新町中学校

開会挨拶…西中

閉会挨拶…第七中

グループリーダー・発表…「6テーマ」の網掛けの学校

6 テーマ 「2032年未来の青梅」

テーマ一覧	担当中学校
少子高齢化におけるまちづくり	第一中学校
	第三中学校
	第七中学校
観光振興	第二中学校
	第七中学校
	霞台中学校
安心・安全なまち	第六中学校
	吹上中学校
	泉中学校
歴史・文化の継承	第二中学校
	第三中学校
	西中学校
公共施設・公共交通	第一中学校
	第六中学校
	新町中学校
環境保全	霞台中学校
	吹上中学校
	新町中学校
交流	西中学校
	泉中学校

7 発表内容

(1) 少子高齢化におけるまちづくり

少子高齢化におけるまちづくりグループでは、青梅市には伝統的な祭りが多いことなどが挙げられました。このような点を、私たち若者が受け継いでいくことが大切だと思いました。

育児の負担が大きいなどの問題も出ました。この問題を解決するためには、社内保育などを増やし、親御さんたちが近くで子育てをしやすい環境をつくることや、保育園がやっているイベントのポスターをつくり、他の市の家族の編入を狙うこと、

発達障害者の施設をつくりバリアフリーを増やし、負担を軽減するなどの意見が出ました。

都会に若者が集中する問題は、小さい子たちから若者まで、都会ではできない青梅の山や川を使ったイベントを開くことで都会への流出を減らすなどの意見や、保育で若者を受け入れてもらう意見が出ました。

(2) 観光振興

「自然と笑顔があふれる青梅を目指して」ということをキャッチフレーズとして考えました。

良いところとして、全校が共通して挙げた点が、自然環境が豊かという点でした。その反面で、課題として豊かな自然を生かしきれていないという点が見つかりました。

そこで、私たちは、2つの未来に向けての活動を考えました。

まず、1つ目は、自然を生かしきれていないという点から、ハイキングコースなどをもっと増やして、初心者の方でも楽しめるようなものをつくりたいと思いました。

2つ目は、見て学ぶ小型バスの利用についてです。これは、自然をあまり生かしきれていないという点を生かし、逆にバスなどでまちを巡ったりして、たくさんの人に青梅の自然の良いところを学んでほしいと思いました。

(3) 安心・安全なまち

建物設備の老朽化、交通安全の2つの観点について話し合いました。

建物の老朽化では、青梅市にしてほしいこととして、ベンチ、遊具で怪我をする危険があるので、点検と修理をしてほしい。公園全般が暗くて怖いので街灯を設置してほしい。若者が夜遅くに集まっているのでパトロールの実施をお願いしたい。

交通安全のほうでは、ガードレールを増やしてもらう、信号機のない横断歩道の安全確保、歩道の青信号の時間を長くする、街灯を増やす、が意見として出ました。

(4) 歴史・文化の継承

私たちは歴史と文化の継承について調べました。

良いところは、御岳山などの自然や青梅大祭やどんと焼きなどの行事が残っているところです。

改善したら良いところは、交通機関が悪いところや治安が悪いところです。そのために、豊かな自然や貴重な動物を守るため、良い治安にするため、ゴミ拾いなどのボランティア活動をしていき、良いまちにしていきたいと思います。

(5) 公共施設・公共交通

老若男女をキーワードにして、意見がたくさんでました。

まず、青梅をどのようなまちにしたいかというのを考えたときに、たくさんの人で活気のあるまちにしたいという意見が出ました。ですが、今のままでは、人が少なくて、大きな活動をして改善していくというのが難しい状況にあると考えます。

そこで、まず人を呼び込む方法を考えました。これは2つあります。

1つ目は、リノベーションをして、ベッドタウン化を図るという方法です。リノベーションで、まちにたくさん人の住宅地をつくれば、ベッドタウン化して更に青梅に住む人が増えると考えました。

2つ目は青梅の魅力をたくさん発信するべきだという意見が出ました。これらは人を呼ぶための具体例です。

次に、そういう活動をして、たくさん人を増やすことができたなら、どのような活動をするかを考えてみました。それも2つあります。

1つ目は交通網の整備です。電車や無料バスなどを増やし、たくさん人の年齢層の方が使えるようにすればよいのではないかと。

2つ目は青梅市全体で公共施設などをもっと充実させたり改善したりするべきだという意見が出ました。これもまた、たくさんの人たちや年齢層の人たちが使えるようにしたいという意見から出たものです。

このようなことから、私たちのグループでは、老若男女たくさん人の年齢層の人たちが使える、活気のある青梅にしたいという意見が出ました。

(6) 環境保全

今の青梅の魅力として自然が多いことや公園が多いことなどが挙げられました。また、ここを変えたらもっと良くなるというのは、自然を生かしたり、自然の象徴であるホタルを増やしたり、ポイ捨てをなくしたりすることなどが挙げられました。

未来に向けてやるということに関しては、自然を生かしたアスレチックをつくったり、公園の設備を良くしたりなどというのを挙げました。

キャッチフレーズとして、私たちは、「ホタルが暮らすまち、未来へつながる青梅の緑」というのを考えました。ホタルが暮らすまちにするには、川がきれいでいないといけないので、そのためにはポイ捨てをなくしたりしないと川などもきれいならずホタルも増えないと思ったので、私たちはポイ捨てなどをやめようというのを取組としてやったほうがよいというのを挙げました。

(7) 交流

私たち交流グループでは、4つの意見が出ました。

1つ目は、自然に触れる機会が少ないです。これに対する改善策は、奥多摩でのキャンプなどが挙げられます。

2つ目は、年齢に関係なく、触れ合える機会が少ないです。これに対する改善策は、まちに集中しているお祭りを駅の近くで開催するという案が出ました。

3つ目は、若者と高齢者との関わりが少ないです。これに対する改善策は、老人ホームの職業体験などが挙げられます。

4つ目は、市役所側の方々からもっと意欲的に地域の交流の活動を検討してほしいです。

8 アンケート

別紙のとおり

オンライン生徒会交流会アンケート

1 アンケート回収状況

＜生徒＞	大変良かった	27名	良かった	8名	合計37名
	普通	1名	改善が必要	1名	
＜学校関係者＞	大変良かった	3名	良かった	1名	合計6名
	普通	0名	改善が必要	1名	
	無評価	1名			

2 自由記述欄について

(1) 各中学校からのテーマ発表について

＜参加生徒＞

- ・質問は少なかったが、内容が深まったので良かった。
- ・普段あまり考える内容ではなかったので、改めて現状を知ることができた。
- ・主張をしっかりとできました。
- ・自分たちの学校だけでは気が付けなかったことを知ることができた。
- ・青梅愛が大変伝わりました。
- ・他校の意見を聞くことで、新しい知識を得たり、発見したりすることができた。
- ・自分が担当した以外のテーマについても、とても興味深い意見を聞くことができた。
- ・自分の視野が広がりました。
- ・自分たちの意見が、市に伝えられてよかった。

(2) 全体に対する意見、感想など

＜参加生徒＞

- ・これからの青梅を考える上でとても貴重な時間でした。
- ・他校との交流がとても有意義だった。
- ・同じ意見が無かったので、皆いろいろなことを考えていることが分かった。
- ・青梅の良いところや改善点は、皆同じ思いであること分かり良かった。
- ・生徒会の1人として、もっと青梅を良くしていきたいと思った。
- ・コロナのためオンライン形式となった、この形式もすぐに周囲とつながるので良いと思った。
- ・良い青梅を作るために、継続してほしい。
- ・今回まとまった意見から、未来の青梅市に生かせることがあればうれしいなと思いました。
- ・1年生で参加をしましたが、精いっぱいやれることができました。(他の学校は2年生が中心)
- ・この機会を生かして、自分の学校でもしっかりと考えていきたいと思いました。

- ・自分が生徒会の一員であることを改めて感じた。
- ・市長や教育長が登場したので驚きました。
- ・このような機会を作っていただき、ありがとうございました。
- ・他校との交流をもっとしたい。時間がもっと欲しかった。
- ・機器のトラブルの際の対応についても、各校で把握しておくが良いと思いました。
- ・いぎという時のサブリーダーを設定しておく、いぎという時の対応ができたと思います。
- ・意見交換開始の方法が分かりづらかった。
- ・リモートだと、スムーズではない部分もあるので直接できるともっと良いかと思った。
- ・事前に自分の学校の生徒の意見などをまとめたうえで、生徒会が代表して発表すると、より多くの意見などがでてよかったと思いました。

<学校関係者>

- ・初対面という中で、一生懸命取り組み、まとめに到達できたのは、参加した生徒の自信になったと思います。
- ・中学生の生の声を聴くことができよかったです。
- ・いじめゼロ宣言について議論するより、今回のテーマの方が有意義に話し合っていました。
- ・グループ協議の発言の順番なども、司会原稿にあるといいと思います。
- ・発表については、ジャムボードやスライドなど、慣れてくれば様々な手法が使えると思いました。
- ・オンライン形式での実施は廃止してほしい。
- ・校内の行事との関係で、この時期の実施は生徒の負担が大きかったです。
- ・資料が見つらかったです。
- ・複数生徒の環境を確認しながらの参加だったので、対応する教員も大変でした。
- ・機器の操作については、改善するとよりスムーズに話し合いが進むと思いました。
- ・一般生徒への還元についての検討が必要
- ・いじめゼロの取組と、今回の交流会を共に実施するのは、働き方改革の時代に反するのではないかと思う。
- ・各校の生徒会の取組の交流会の方が、生徒にとっては有意義だと思いました。
- ・やはり、直接の方が充実すると思います。
- ・来年度も同様の方法でしたら、事前に準備をしっかりしたいと思います。